



四・五月号

發行所 財団法人 全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ木一丁目一〇番地  
電話 54(二)〇三三  
編輯者 栗本俊道  
印刷所 榮昌堂

## 主 張 省察の上に一步前進を

釈尊二千五百年祝典は、六十名の外国代表と延数万人に及ぶ国内仏教徒が参加して成功裡に終った全日仏としては全日仏教徒各位の協力に對して心からの感謝のほ

わかれわれ仏教徒は、この祝典を単に華々しいお祭りさまでに終らせることなく、この中から多くを学びとり、今後の精進を誓わなければならぬ。いま二三の省察を試みよう。

才一に國際親善促進の上での成果である。戦後、急速にわが国民、特に仏教界は國際的交流の機会に恵まれるようになった。このことは、われわれが独りよがりや民族的偏見を払拭し、真に平等な親善友好の關係をうち立てるに役立ってきた。今回の祝典は、この氣運を一層促進した。このような經驗を通じて世界各國民間の相互信頼は確立され、その基礎の上にこそ真の世界平和は顯現されることと信ずる。

才二に祝典成功のために示された仏教界の協力態勢である。一つの目的に向つての協力が如何に重要であるかはつきり教えられたことは大きい。事実この祝典を契機に數界で具の組織化が進んでいることが、これを裏書きしてい

る。われわれは今やこの自明の平凡な真理の意味を、わがものとして把握しなければならぬ。

才三に教化面の問題である。全日仏では結成以來初めてと言われるほど大量の教化資料を全国的に作製配布し、講師団を各地に派遣して熱意をもつて迎えられ、好評を得た。在来、やゝもすると仏教界の不振が、民衆の宗教的の低さや無関心性に責任転化されるきろいがかつたとは言えない。しかし、われわれは現代において正しい視點に立脚してこの問題解決に努力すれば、必ず光明を見出し得ると確信している。今回の祝典に併行して行われた教化活動が可成りの成果を得たことは、われわれに希望を抱かせる。

以上、若干の点にふれたに止まるが、われわれはこの際、よく祝典全般に亘つて反省總括の必要がある。かくてこそ全一仏教運動の内容を一步一歩と高め、前進させることができる。

全国の仏教徒各位が本問題について積極的な意見を寄せられ、それぞれの立場から協力されて、更に仏教興隆の具體的運動が展開されることを心より期待して止まない。

## チベット問題で声明発表 『常務理事会』開かる

全日仏では去る四月二十日午前十一時三十分より午後一時三十分

に亘り東京築地レストランサポイに於て常務理事会を開催した。先ず理事長開會宣言の後、常務理事、西沢浩仙師退任し、佐々木泰翁師が新任された旨を報告、紹介して議事に入つた。亦、曹洞宗内局更迭に伴う全仏常務理事、理事評議員の変更等につき報告がなされ承任された。次にチベット問題について石川國際局長より去る十八日開催の國際委員會の経過並びに答申案について報告の後協議に入り、左記の内容を盛つて全日仏としての公式声明書を發表し、世界各國のWFBセンター(世界仏教徒連盟支部)並びに国内加盟各宗派、団体、役員などへ夫々送達することに決定された。

- (1) 文化財保護の立場から、相方共に武力行使を止めてほしい。
  - (2) 信教の自由を尊重してほしい。
  - (3) 仏教の平和精神の立場から速やかに武力行為を止めてほしい。
- なお声明書の成文化については事務局側に一任され、別紙の通りの声明書文案が提出され、理事長朗読の上これを承認可決した。
- その他の議題は
- 釈尊二千五百年祝典概要報告並びに謝意伝達の件。
  - 各種選挙の件。
  - インドネシアに於けるウエサカ祭に日本代表派遣の件。
  - 島根県仏教会加盟の件。
- なお当日の出席者は左の通り、

重永潜、佐々木泰翁、小林大巖、長岡慶信、岩野真雄、宮谷法含、常光浩然、中山理々、太田淳昭、田丸道忠、口山日宣の各氏、事務局側から石川、佐瀬副局長、高橋、柳部長。

### 声 明

本会は、チベットに起きた今回の問題に關し、ダライ・ラマが国外に身を置かざるを得ぬ現状にたち至つたことを大いに遺憾とし、事態の進展を憂慮して左の通り内外に声明する。

信教の自由が尊重されると共にチベットに現存する貴重なる仏教文化財が武力行使によつて破壊されないことを強く要望し、釈尊の慈悲の大精神に基づき世界の平和を急願して、この地上に武力行為が行われないことを熱望する。

昭和卅四年四月二十日

全日本仏教会

### チベット問題を討議

#### 【國際委員會】

中共のチベットに對する行動は國際的に異常なショックを投げかけているが、全日仏では去る四月十八日午前十一時に東京銀座三笠會館に於て國際委員會(委員長伊藤史氏)を招集し、左記の件につき熱心に討議し午後二時頃散會した。

### 國際委員會答申事項

諮問事項 全日仏はチベット問題を如何に取扱うべきか。

#### 答申事項

- 一、チベットの仏教文化財が武力行使によつて破壊されないよう要望する。
- 二、武力行使のないことを要望する。
- 三、一九五一年の中共とチベットとの協約にある信教の自由、特にラマ教の尊重を保証している才七条が尊重されることを要望する。
- 四、チベット問題研究調査機關を全日仏内に設置してもらいたい。
- 五、要緊事項の取扱方を全日仏事務局に一任する。

### 参院選に立候補の 仏教関係者を推薦

在来、国会には仏教議員連盟が超黨派的に組織されて仏教界の発展について種々配慮され、また政治上に仏教の眞精神を生かして、正しい政治のあり方を実現すべく努力してきたが、来るべき参議院議員選挙には、仏教関係者として次の各氏が出馬される予定である。これら各氏の当選は議員連盟を一層強化するものとして、仏教各界の注目を集めている。

大谷よし雄、北畠教真、山本杉、赤松常子(以上全国区)  
海野三朗(山形)  
なお、全日仏では従来通り、これら仏教関係立候補者を推薦し、全員当選を期待している。

(京都大会での記念撮影、於西本願寺)



# 仏教徒の結集で盛会

## 二千五百年祝典成功裡におわる 府県仏の組織化も進む

去る三月二十七日より三十一日  
に及ぶ、釈尊二千五百年を讃える  
会(会長石橋湛山)主催による東  
京でのブッダ・ジャヤンティに引  
き続き、釈尊二千五百年祝典実行  
委員会(全日仏)と各地区実行委  
員会は、四月一日より九日まで、  
京都、奈良、大阪、広島、福岡、  
愛知、福井、石川、静岡、神奈川  
山形、栃木、の各府県において盛  
大な各地方大会を開催して、釈尊  
の二千五百年を慶讃し、各国代表  
に心から歓迎の誠意をあらわした  
今回の大会には、十一ヶ国約六  
十名の外国代表が出席したが、こ  
のように多数の代表を迎えること  
は、去る昭和二十七年の才二回世  
界仏教徒会議以来のことであり、  
限られた予算と陣容を以てする事  
務局は今年初頭以来全くこの大会  
開催の準備に忙殺されてきた。ま  
た各地方大会開催地でも、地元仏  
教会が中心となつて、早くから各  
界の協力を呼びかけて準備万般怠  
りなく、大会成功のために奮闘さ  
れた。

この大会のため、全日仏では既  
に昨夏、釈尊二千五百年祝典実行  
委員会を組織して、仏教各界の機  
能と力量を総結集する態勢を整え  
度重ねての実行委員会、常任実行  
委員会、各専門委員会を開催して、  
構想を練り、実策を打ち出して積  
極的に行動してきた。その結果、  
この大会を大衆的な規模の集会と  
してゆくと共に、併せてボスター  
パンフレット、ブッダ・ジャヤンティ等の  
教化資料を作製配布したり、講師

団を結成して派遣する等によつて  
教化活動をつよめ、国内的に仏教  
興隆の一大契機としてこれを生か  
してゆくことを大きな目標と定め  
て努力が行われた。  
このような努力目標に向つての  
本部と各地方実行委員との協力は  
各地方大会を多角的な内容のある  
集会として可成りの成果を収め得  
たものとして各方面の注目を集め  
ている。  
また各府県仏教会では、今回の  
大会開催の過程での協力を通じて、  
内部的な組織強化を進めてい  
ることが注目されている。  
大会出席の各国代表は、大会の盛  
会をよろこび、併せて、各地方の  
歓迎に感謝と敬意を表しつつ、そ  
れぞれ無事帰国の途についた。  
なお、全日仏では、各地方大会に  
次のような会長挨拶をおくり、心  
からのよろこびを表明した。

### 会長挨拶(要旨)

釈尊の尊い教えは、わが国民は  
言うまでもなく、アジア諸国民の  
精神生活の上で大きな導きの糸と  
なつてまいりました。  
そのアジアの国々は、いま力強  
い姿で世界史の上に新しい地坂を  
占めてきておりますが、この時期  
に一昨年来釈尊二千五百年を讃え  
る祝典が、アジア各国で行われて  
きたことは、決して故なしとしな  
いことと考へられます。  
われわれは、釈尊のみ教えこそ  
が、人々に正しい心ゆたかな生活  
の道をさとし、現代世界に真の平

和を顕現する光明であることをか  
たく信じて疑いません。

われわれは、この記念すべき釈  
尊二千五百年祝典を契機として、  
いよいよ深く正法にまなび、わが  
国仏教徒の力を全国的に結集して  
世界の仏教徒と協力を強め、人類  
の福祉増進に貢献すべく精進を誓  
いたいと思ひます。  
最後に御来会の皆様と共に、仏  
陀の慈光に心からの感謝を捧げて  
本大会へのおよろこびのことばと  
いたします。

合掌

全日本仏教会

会長 高階 瑞 仙

なお、こんどの大会へ参加した各  
国代表を紹介しておこう。

### 出席各国代表

#### ビルマ(六名)

ウ・タンラ師、ウ・ケ・メイ  
ン  
ダ師、ウ・ダンマサラ師(以上  
は門司ビースパゴダの開教師)  
ウ・ボ・ギー博士(最高裁判事)  
ウ・ミヨウ・タン氏(大使官書  
記官)

#### カンボチャ(三名)

タツク・プラン師(モハニカイ  
派)、ソツク・ユーン師(ダン  
マユッタ派)、ユーン・チヨウ  
ム氏(仏教協会事務総長)

#### セイロン(十二名)

アムヌガマ・ラージャゲル・ス  
リ・ウイパツシ師(キヤンディ  
仏函寺住職)、K・マハーナー  
マ師(ヴァジラマヤ寺住職)、  
ピアダツシ師(全セイロン仏教  
学生同盟理事長)、W・サツテ  
イサラ師(ビリヴェーナ寺)、  
アンバラングダ・チャンドラシ  
マリ師(在シンガポール開教師)  
ヤヤウイーラ・クルツブ文化

大臣、V・C・ジャヤスリヤ文  
化次官、K・A・アルバート・  
ベレラ氏(シンハリズ商工  
会議所会頭)、マーガレット・  
ベレラ夫人、スリヤ・コダゴダ  
嬢(セイロン仏婦)、マリカ・  
ベレラ嬢(同)、L・アムヌガ  
マ氏(セイロン仏教会)

#### インド(五名)

アーナンド・コウサリヤナ師  
(サルナート仏寺高僧)、デヴ  
アブリア・ヴァリシナハ博士  
(印度大菩提会事務総長)、  
P・V・ババツト教授(デリー  
大)、P・R・ムルティ教授  
(ヒンズー大)、ナリンナクシ  
ヤ・ダツト氏(国会議員)

#### ラオス(三名)

フラ・マハ・カムタン師(高僧)  
サンカンホツク師(同)、クル  
オンク・パトウムザツト氏(宗  
教局長)

#### マラヤ(七名)

K・ダンマナンダ師(クアラ  
ンプール寺院住主)、リム・ヨウ  
・ツーン氏(ベナン仏教会長)  
リム・ヨウ・ツーン夫人、ホウ  
・スク・フォング夫人(ベナン  
仏教会)、クーン・ユ・クホー  
女史(同)、リム・チエング・  
デーイ女史(同)、リム・アン  
グ・ラム嬢(同)  
バキスタン(二名)  
ヴィスツダナンダ師(仏教会長)  
バンギシヤ・ピクシニ師(仏教  
会事務局長)

#### 中華民国(四名)

エン・パイ師(善導寺住職)、  
チユウ・ハン・ビン氏(立法委  
員)、ウー・チエン・シン氏  
(仏教大教授)、リー・ティエ  
ン・チン氏(台湾大教授)  
(三頁五段目)

# 仏教興隆に眞の内容

## ― 釈尊二千五百年記念傳道 ―

全日仏では、釈尊二千五百年祝典実行委員会を構成して、各地各界と協力して、去る四月一日より九日まで、全国各主要都市でブッダ・ジャヤンティを盛大に挙行したが、この際、釈尊讃歌の楽譜、パンフレット「人間の道」、リーフレット「アジアの光」、子供用絵本「はなまつり」等大量の教化資料を作製配布して教化活動の推進をはかると共に、講師団を編成して、各地の要望により記念伝道講演会に講師を派遣した。

この釈尊二千五百年記念伝道は開催各地で非常な好評をえ、日頃中央からの講師に必ずしも恵まれていなかった各地で、多くの聴衆を動員して成功をおさめた。因みに各地講演会の模様を紹介しておく。

### 静岡

去る二月二十五日静岡市至台院ホールで、静岡県仏教婦人会結成大会が開かれたが、来るべき静岡県釈尊二千五百年祝典の一環として記念講演会が開かれ、久保田正文講師が「今日の生活と仏教」について講演され、聴衆は仏教徒としての責任の重さを自覚して成功裡に閉会した。また、四月五日には、齊藤栄三郎講師を迎えて興津町で記念講演会が開かれ、非常な盛會を極めた。

### 広島

同地では、釈尊を讃える広島大会中央大会で増永靈鳳講師による「釈尊の眞精神と現代の生活」と題する記念講演が行われ二千名余の参会者に深い感銘を与えた。

### 石川

石川県では、舟橋一哉、香月栗

光、長田恒雄、花山信勝の各講師が広く金県下に亘って出講され、それ〴〵五百名から一千名に及ぶ聴衆を集めて非常な成功をおさめた。即ち、四月四日午後一時津幡町（舟橋・長田）同午後八時森本町（舟橋・長田）、五日午前十時小松市（舟橋）同午後一時加賀市（舟橋）同二時鶴来別院（長田）、六日午前十時金沢（長田）同午後二時松任町（舟橋）、七日午後七時金沢（香月・花山）、八日午後一時羽咋市（香月）同午後二時金沢市（花山）と多くの各地で講演会が開かれ集中的な伝道として各方面の注目を集めている。

### 山形

山形では外国代表を迎えての、ブッダ・ジャヤンティで、にぎやかに大衆の動員が行われたあと、去る四月十九日より二十二日に亘り、各地で記念講演会を開催して、仏教精神の昂揚に大きな役割を果たした。即ち、結城令開、山本洋一の両講師を迎えて、十九日には米沢市、二十日は山形市の山形大学と中央公民館の二ヶ所、二十一日は寒河江市、二十二日は鶴岡市と酒田市

と県下主要都市全般に亘って大衆を集めた講演会が開かれた。結城講師は「仏陀の出現を讃え、仏教の現代的意義を憶う」と題し、また山本講師は「科学時代の仏教」と題して、それぞれ著書に傾けた講述に聴衆を仏教の眞精神に触れしめる大きな役割を果たされた。なお山形県下では、今回のジャヤンティ、記念講演会等を通じて県仏教会組織化への動きが高まっており、近く正式に発足という成果が得られる模様である。なお、更に来る九月八・九の両日には岩手県と福岡県で、それ〴〵記念講演会が開かれ、山本洋一、長田恒雄の両講師が派遣される予定である。



（盛岡の講演会）

### 岩手

岩手県仏では、かねて県仏としての活動強化について協議を進めていたが、今般の釈尊二千五百年祝典を記念して県仏の祝典を開催し、また講演会を開いて教化の実を挙げた。即ち、五月八日盛岡市で山本洋

### 福岡

福岡県仏は、今回の祝典で盛大な地方大会を開いたが、これをうけついで五月九、十、十一日の三日間に亘り、長田恒雄講師を招いて、福岡市、久留米市等で充実した講演会を開催した。

### セイロンへ観音像と舍利仏協力金を贈る

#### ▽クルップ文化相 迎え贈呈式△

全日仏では釈尊二千五百年祝典にセイロン代表として来日した、文化大臣ジャヤウイラ・クルップ閣下、ジャヤスリヤ文化省次官及び駐日セイロン大使ササンタ・ドゥ・フオンセカ閣下を去る三月三十一日午後三時東京築地本願寺に招き、セイロン国アマラピハール（在コロンボ市郊外）へ贈る観世音菩薩像一軀（ブロンズ像）を同文化相へ、全日仏副会長増田日遠師から手交された。同仏像は国際平和観音賛仰会（会長古川為三郎氏）の提供によるものである。同時に一昨年来、コロンボ市に建設中の舍利仏、目連二大尊者の聖骨堂建設資金の一部として各仏教

#### 【二頁より】

シンガポール（一名）ダンマ・スツカ師（仏教会長）タイ（十四名）

ソムデック・フラ・ヴァナラタ師（僧伽総理）、ソムデック・フラ・マハー・ヴィラヴァンガサ師（僧伽司監）、フラ・マハー・プラチユアブ師（高僧）、フラ・マハー・チャウイン師（同）MCブーン・ピスマイ・デイスクル妃殿下MCパタナヌ・デイスクル妃殿下、MLポング・マラクル夫人（仏教会）、フینگ・スリヴィチャーン氏（宗教大臣）、プラコン・スリヴィチャーン夫人（仏教会）、ブー・ロチャナプラナンダ氏（宗教局長）、ソムフオーン・テブシッタ氏（仏青会長）、ティブオーン・テブシッタ女史（仏教会）、スラシ・ヴィラヴァンガ氏（同）、チット・ヴィバサタヴァット氏（同）

#### ヴェトナム（七名）

タン・ティエン・ホア師（高僧）ニエン・マ・ヒューム師（同）ドーン・ヴァン・ホーン師（同）ニエン・ザン・バオ師（同）、ダム・フオングニ、ルティ・チュアン・ホワ女史（仏教会）、ダン・ヌー・ラン氏（同）

宗派、団体、学校、個人から集った浄財一三〇万円を同様に文化相を通じて贈呈された。

# インドネシアに散った 戦犯遺骨の送還

## 「全日仏」中心で実現の運び

太平洋戦争によつて、インドネシアのジャカルタ市に於て六十七名の元日本軍人が逮捕され、戦犯として、グドック刑務所などで処刑されたことは未だ耳新しいが、近々ジャカルタ市ではその都市計画に基づき、埋葬されている個所にコンクリートの建造物が建てられることになったので、早急に同遺骨の内地送還を実現せざる場合、各英霊は永久に遺族の手に抱かれずに、異郷の地に埋れてしまうことになるのである。同じ日本人としてこれを放置しておくことは耐えられないことであり、また遺家族の心情を察するに洵に断腸の思いがある。

幸いに当時軍に關係し、戦後も帰国せず、インドネシア独立戦争に陸軍大尉として活躍し数々の功を立て同国に帰化した、西村正道氏が現地に於て同国政府へ交渉する一方、日本に居る同氏の実兄である西村元克氏を通じて再参再四現地に於ける交渉経過状況等を全日仏へ報告して来た。実兄の西村氏も全日仏を数度に亘り訪れ、本件について実現の運びになる様努力してはいる旨を依頼して来た。なおインドネシアに於てはすでに実弟の正道氏も副委員長として加わつて、同氏のかつての上官であつた、旧インドネシア義勇軍中佐サストロ・アトモジョ氏が委員長となつて、「インドネシア戦争犠牲者遺骨発掘委員会」を組織し西部、東部ボルネオ總督等に嘆願書

を提出し厚意ある援助方を要請している。  
本件に關する処理方式は対政府交渉が筋道であるが、目下の政情ではこれが実現は甚だ困難であるので今回の話しがもち上つたものである。  
全日仏としては如上の趣旨に賛意を表し近々「ジャカルタ戦争犠牲者慰霊会」(仮称)を発会し、一日も早く遺家族の懇望にこたえるべく考慮中である。

なお遺族の一人である佐藤菊江さん(岩手県)は過日全日仏へ左の如き手紙を送つて来ている。  
前略 陳者わたくしこと、佐藤源治(元陸軍憲兵曹長、昭和二三年九月二十二日ジャワワチビニにて死刑)の遺族の母であります。今度新聞、ラジオにて知りましたが、何卒一日も早く送還実現が果し得られますよう心からお願ひ申し上げます。尚只今遺稿整理中(才一巻は出版済み)ですが励みが出ます。何卒よろしくお願い致します。 敬具

来る五月二十二日にインドネシアのジャカルタ市ポロブドゥール寺院に於いてウェサカ祭が舉行されることになり、各仏教団が招待を受けているが、全日仏から日本仏教代表として木村義祐師(静岡市在住、曹洞宗願光院住職)が派遣されることに決定された。なおかねてから外務省を通じてマラヤ連邦クアラ・ルンブールにある日本禅宗寺院へ日本人住職の派遣方を依頼されていたが、この機会に木村氏に現地の視察も依頼されており、また同時に前記戦犯遺骨に關する下交渉も含まれている。

なお木村氏は十八日夜二三時五九分羽田発の日航機で出発する。

インドのウェサカへ  
日本代表派遣

来る五月二十二日にインドネシアのジャカルタ市ポロブドゥール寺院に於いてウェサカ祭が舉行されることになり、各仏教団が招待を受けているが、全日仏から日本仏教代表として木村義祐師(静岡市在住、曹洞宗願光院住職)が派遣されることに決定された。なおかねてから外務省を通じてマラヤ連邦クアラ・ルンブールにある日本禅宗寺院へ日本人住職の派遣方を依頼されていたが、この機会に木村氏に現地の視察も依頼されており、また同時に前記戦犯遺骨に關する下交渉も含まれている。

岡市在住、曹洞宗願光院住職)が派遣されることに決定された。なおかねてから外務省を通じてマラヤ連邦クアラ・ルンブールにある日本禅宗寺院へ日本人住職の派遣方を依頼されていたが、この機会に木村氏に現地の視察も依頼されており、また同時に前記戦犯遺骨に關する下交渉も含まれている。



インドネシア戦没者名簿を受取る  
木村氏(右)全仏事務局で

### 「千葉県仏」 力強く発足す

去る三月十五日かねて幾回かの準備委員会で検討を重ねて来た千葉県仏教会の結成大会が千葉市「はていや」に於て開かれた。この日全県下各方面の地区仏教会代表者及び準備委員等凡そ五十名の人が集り、野田市仏教会代表を座長に推して経過報告(準備委員長)次いで県仏会則案の審議を行つた。会則の審議はさして異論もなく原

案通り可決されたが、本会の運営の基本となる経費の問題に付ては三、四の方面から相当鋭い質問がなされ、準備委員長亦従来の郡市仏教会の実績及び旧千葉県仏の苦い経験に鑑み切々と新県仏の前途を思うが故に協力を乞うとの答弁がなされ、会場には真剣な空気が流れた。

また役員の選出についても極めて、おだやかな空気の裡に終了して一同千葉県仏の前途を祝する方こそ三唱して散会した。

右結成大会には全日仏本部より高橋組織部長が出席して祝辞をのべた。

なお同県仏では近く理事会を開いて会長以下の役員を推戴、選出して陣容をととのえ、いよいよ具體的な活動を開始することになっている。

これに関連して、全都県で組織が確立されたので、今後の充実した活動に大きな期待がかけられている。

### 通訳慰勞の会開催

通般本邦一円に亘つて開催された祝尊二千五百年記念祝典は盛況裡に終つたが、全日仏では去る四月十七日午後一時より東京築地本願寺に同祝典に隨行した通訳二十余名を招き激励勞々慰勞の会を開催した。全日仏から石川局長、柳部長、通訳陣からプリンクリー氏野本浩智氏らが出席した。

### 『宗教法人実務必携』

(宗務活動研究会編)  
戦争中、宗教団体法によつて統制されてきた宗教法人は、戦後の民主化の中で、宗教法人令から宗教法人法へと移行変遷した宗教法によつて混乱から漸く立ちなおつてきた。しかし、何分にも、戦前

とは全く異なる基準と体系をもつ戦後の宗教法は、現在の宗教法人の關係者にとつて、その理解は必ずしも容易ではない。こゝに若干の混乱と誤解を生む原因があると思はれる。

宗教法人が「法人」としてはつきり確立される必要は、いまや時代のスウ勢であるといえよう。であれば、法人關係者が現在の宗教法を明確につかむことは絶対に必要なことである。

「宗教法人実務必携」はこのような時代の要請に応えようとした努力の結晶である。編著者(桜井榮章氏)は「はしがき」で本書は宗教六法と宗教手帳を兼ねたものと自負している。宗教法の全般に亘る解説であり、同時に詳細な手続の実務にまで及んだ親切な好著といえよう。(定価八〇〇円、發行所東京都中野区鷺ノ宮一ノ二六八宗教活動研究会)

### あとがき

▼祝典開催で、日夜を分たず尽力された各地の皆様御苦勞さまでした。また、これに物心両面で協力を惜しまれなかつた全国の仏教徒各位に心から感謝せずにはおれません。

▼チベット問題が、ジャーナリズムをにぎわしていますが、われわれ仏教徒としては、事態があくまで平和的に解決され、貴重な仏教文化財が保護されることを心から祈つてやみません。

▼いよいよ暑さに向いますが、祝典の成果を生かし、地道に積み上げて正法興隆に一層精進しましう。